

氷見校区 タウンミーティング開催報告

【日 時】令和6年9月8日（日）10：00～11：30

【場 所】氷見公民館

【参加者】地域：13人（氷見校区連合自治会長など）

市：4人（市長、教育長、産業経済部長、氷見公民館長）

【テーマ】

1 10年後の教育環境について

2 地元での雇用先の確保について

概 要

1 10年後の教育環境について

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
今後、小中学校の再編はどのようになっていくのか。 また、学校再編の計画としては統廃合が実行される予定で決定しているのか。	現在、学校適正規模適正配置等審議会にて、将来にわたる学校の適正規模等について協議が行われている。 適正配置の基本方針案は、小学校においては1学年2学級以上、学校全体で12学級以上、中学校は1学年4学級以上、学校全体では12学級以上が望ましい学校規模としているので、まずは過小規模校の解消を目指していくが、地域の意見も吸い上げながら進めていきたい。 教育委員会としては、審議会から答申を受けた後に、案を出す、計画通りに進むとは思っていない。絞切り型にはしたくないので、適正化の対象校区において、令和7年度からPTAを主体に保護者や地域に対し意見聴取の場を設ける予定である。 まずは審議会で十分に議論していただき、地元の意見を聞きながら進めていきたい。また、皆さんと共に良い学校を作りたいという思いをご理解いただきたい。
学校規模の適正化に反対しているわけではないが、少人数学級が良くないという考え方には疑問がある。 必要数の先生を配置できないのは、市や県、教育委員会といった行政側の問題だと思う。少人数の学校ではクラス全員が仲が良いという良さもある。 統廃合してもその良さがなくなるわけではないが、人数を理由にするのではなく、教育面からの意見をもっと多く聴くことができれば、地域の理解が進むと思うので、行政の考えを教えてください。	そういった部分も非常に大切だと思っているが、数を基に現段階で決まっている基本方針としてお示しした。 氷見校区はコミュニティがしっかりしており、歴史や文化を守ろうという意識が高い校区だと思う。 令和6年度から市内小中学校でコミュニティ・スクールがスタートし、地域の方々にも学校運営に関わっていただく形となるので、ソフト面もしっかり考えていく必要がある。 仮に学校を統廃合する場合、新たな学校の場所をどこにするかということを考えなければならない。防災の観点からも、安全な教育環境を整備する必要がある。
	実際に小規模校で過ごしたいと思う子どももいて、田滝小学校では現在15人程度の生徒が完全な複式学級で元気に通学している。 今後の学校の適性化については、10年後やそれ以降の課題も考慮しながら進めていきたい。
自分の子どもは少人数校で満足しており、大人と子どもでは考えが異なっているように思う。 学校規模適正化や高校再編など正直子どもたちはあまり望んでいないのかなと思うが、子どもによって違うとも思う。	子どもや保護者の考え方がそれぞれあっていいと思っている。その中で、少人数校である田滝小学校のように個性がある学校があってもいいと考える。 子どもは環境が変化しても順応することができると思うが、個性を大事にしていかななくてはならない。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
今後、仮に学校が統廃合される時、防災拠点はどうになるのだろうか。 また、学校規模適正化後の校舎の利活用について、先進事例があれば教えていただきたい。	学校施設が防災拠点であることは十分認識しており、老朽化する校舎外壁の改修と併せて国の推奨する数値に対応した耐震改修をこれまで以上に多くの学校で進める予定である。 再編後に使用されない校舎がでた場合、先進事例は数多くあるので、活用事例をお示しできるものと考えている。
県外在住歴がある自分からすると、西条市は他地域よりも子育て支援が充実していて幸せだと思うことが多い。 また、愛媛県は良いところも多くあるのに、あまり周知されておらず、他地域の事情を知らないことから不満も出てくると思う。 一方、人口が多い地域と比べて、西条市での手続きが煩雑で驚いた。	西条市では、出生届の提出をもって全ての手続きが完了するといったDX化を、全国に先駆けて進めている。 手続きを簡素化し、書かない、待たない、行かない、そんな窓口を目指している。 また、子育て応援アプリ「ハピすく」では、子育て世代向けに子どもの検診予定を通知している。 加えて、気軽に保健師に相談しやすい環境を整備している。
2 地元での雇用先の確保について	
地元に帰りたいが、就職先がないという声をよく聞く。また、東京や大阪の本社採用では、地方転勤でも松山になることが多く、西条市に戻れない。 西条をはじめ、新居浜、今治で若者が安心して就職できる環境を整えてほしい。	市内には、マザー工場はあるが本社機能を持っている企業がないのが弱点。 企業雇用情勢では、人手不足等から求人は増加しており、市内企業も採用予定人数が増加傾向にある。 学生たちがUターン就職を検討するときに、地元企業を選択肢に入れてもらうためにマッチングさせていく必要がある。
SNSを活用し、大学生のうちに西条市の就職情報を届けるような仕組みを作れば、もっと西条市の就職先を選んでくれるのではないかなと思う。	現在も高校生や大学生にアプローチする取り組みを実施しているので、さらに充実させていきたい。
西条市の工業出荷額は高く、いい会社があると思う。ただ、長期的に落ち着いて働くということであれば、やはり何十年かかってでも新しい企業を誘致した方がいいのではないかなと思うが、行政はどのように考えているのか。	市でも企業誘致に取り組んでいるが、農地を守るため規制がかかった土地があり、求められる場所を即座に提供することは難しい場合がある。 今後も、県との連携を図りながら用地確保をしていき、できるだけ短時間で企業のニーズに応えることができるようにしていきたい。
その他	
小児科の夜間救急において、市内で受け入れてくれるのは西条中央病院だけなので、新居浜の病院まで連れていくことが多く、働いている親にとっては非常に不便だ。 また、受診時に一旦医療費を支払う必要があり、後日市役所で払い戻しの手続きをするために仕事を休まなければならない。 加えて、以前は小松総合支所でも手続きが行えたが、今は本庁と西部支所のみになっている。	市内で夜間対応ができる小児科は少なく、新居浜市に小児科の夜間対応可能なセンターがあるが、運営が難しくなっているようだ。 新居浜市を中心として四国中央市を含めエリアで考えていかなければならない。 手続きの関係では、払い戻しのやり方が常態化しているが、今後DXの取組みの中に組み込み、簡素化できるようにしていきたい。
市内に産婦人科が少なく、出産可能な病院は市内に2つしかない。子育てをする上で出産環境が整っていないことが問題だと思う。	人口比率からみると、市内産婦人科の数が少ないわけではない。 訴訟リスクが高いため、産科医になる医師が少ないことが問題となっている。